

サンワチャンネル

令和6年8月号



日本の夏の風物詩「花火」が夏に行われる理由は？

今年も花火大会の季節がやってきました！友人や恋人、家族と一緒に見に行かれる方も多いのではないのでしょうか？花火や火薬の歴史自体は実際にはヨーロッパや中国の方が古いと言われていますが、日本では花火が文化やしきたりと交わり、今のような形の花火大会として楽しめるようになりました。

日本の花火はなぜ夏限定？

海外では年末のカウントダウンや記念日を祝うときなど、何かのお祝い事に伴って打ち上げられている花火ですが、日本では「花火大会」という花火自体を楽しむイベントとして開催されています。そんな日本で開催される花火大会はそもそもなぜ夏に行うのでしょうか？

それは、**お盆の送り火**としての役割があるからです。お盆とは一般的に8/13-8/16の期間で「祖先の霊が私たちのもとに帰ってくる期間」とされていますが、しきたりの一部で「火」が重要な意味を持ちます。13日に迎え火で先祖の霊を迎え、16日に送り火で送り出します。灯ろう流しや京都の大文字焼きも送り火の一つとされています。花火も同様に、もともとは送り火として先祖をお送りする意味合いをもっていました。

他にも、徳川吉宗が死者の慰霊と悪霊退散を祈って川開きと同時に花火を多数打ち上げたのをきっかけに、これが恒例になっていったという理由もあります。

今でも花火大会の時期がお盆辺りの8月に集中しているのは、このような理由があるからだそうです。

花火の掛け声の由来

花火を見ているとき、「たーまやー！」「かーぎやー！」と掛け声をかけている人がいますが、これは昔の川開きの際に花火を打ち上げていた**江戸時代の花火師の屋号**からきています。

当時、玉屋と鍵屋という花火師が両国橋を挟んで交互に花火を打ち上げていたそうです。そして花火を見ていた観客たちが「より美しく素晴らしい」と思った方の花火を賞賛する意味を込めて、屋号を呼ぶ声上がるようになりました。

昔の赤橙色の花火を多色の花火にすることに成功したのが玉屋だといわれています。そのため玉屋が圧倒的に支持されていた名残で今でも「たまや」と掛け声する人が多いのだそうです。

山形県 8月開催予定の花火大会

8/16(金)

第64回金山町納涼花火大会

場所:金山町/金山川河川敷

打ち上げ数:約2,000発

8/17(土)

第71回真室川まつり花火大会

場所:真室川町/真室川河川敷

打ち上げ数:約2,000発

8/16(金)

大石田まつり最上川花火大会

場所:大石田町/最上川河川敷

打ち上げ数:約3,000発

8/3(土)

酒田の花火2024

場所:酒田市/酒田市最上川河川公園

打ち上げ数:約10,000発

8/17(土)

第31回赤川記念花火大会

場所:鶴岡市/赤川河畔

打ち上げ数:約12,000発

8/15(木)

水郷大江夏まつり灯ろう流し花火大会

場所:大江町/楯山公園・千本原

打ち上げ数:約4,000発

8/14(水)

第45回山形大花火大会

場所:山形市/霞城公園

打ち上げ数:約10,000発

8/2(金)

第61回米沢納涼水上花火大会

場所:米沢市/松が岬公園の堀

打ち上げ数:約6,000発

花火の持つ意味合い、夏に行われる理由、掛け声の意味などを知ったうえで花火を見ると、今まで以上に花火の美しさが増し楽しめる気がしませんか？
今年の夏もとても暑い日が続くようです。熱中症には十分に注意し、花火大会で浴衣を着たり屋台も楽しんでみてはいかがでしょうか。